

十津川温泉の泉質管理 (Web)

古くから、十津川温泉は素晴らしい入浴施設の数々と良質の湯で温泉好きの人々に知られていました。この地域の温泉は何百年もの歴史を持ち、15 世紀の武士がこの温泉を隠処として戦の傷を癒したという逸話も残されています。また、約 300 年前、薪を探していた炭焼き職人によって、さらに別の温泉も川のそばで発見されました。しかし、十津川の温泉が最も有名になったのは、もっと最近の、十津川が新たに印象的な宣言を発表した際のことでした。

約束

2004 年、3 つの温泉郷の代表者は驚くべき発表をしました：すべての施設を完全に源泉かけ流しにするという宣言です。それは、源泉の循環、再利用、再加熱、塩素処理、希釈をしないことを誓うもので、日本では前代未聞でした。これは決して簡単なことではありませんでした。大抵の源泉は入浴施設からある程度離れた場所にあるため、ホテルなどの温泉を運営する事業者は、お湯の温度や品質を一定に保つために何らかの処理をせざるを得ず、また、経済的な理由で水を再利用することも少なくありません。しかし、十津川の豊富な湯量と、源泉から浴場まで湯温を維持するために異なる源泉のお湯を混合する巧みな給湯法のおかげで、これらの温泉郷はこれまでこの約束を守り続けることができました。

誓いを守る

湯泉地温泉は十津川の 3 つの温泉郷の中で最も古く、室町時代（1336-1573）に開湯したとされています。しかし、修験道の開祖として尊敬される役行者（634-706）によってそれよりずっと前に発見されたとする説もあります。現在、これらの源泉の湯は、溪谷沿いにある数多くの旅館や民宿に配湯されており、泉湯と滝の湯という公衆浴場では、内湯と露天風呂の日帰り入浴が可能です。湯泉地の湯は主に、各地の温泉の定番である硫黄泉です。

十津川温泉は湖畔に広がる大規模な温泉郷で、3.4km 離れた源泉からホテルなどの施設 10 軒にお湯が引かれています。この場所の温泉は、高温を保つ塩分濃度の高いナトリウム炭酸水素塩泉質の飲用も可能なお湯で高く評価されています。温泉郷の中心部にある公衆浴場「庵の湯」では、日帰り入浴し、すぐ外に広がる湖の景色を楽しむことができます。

上湯温泉は、この地域では最も小さい温泉で、上湯川に直接面する私営の大きな露天風呂です。18 世紀前半に里人によって発見されたと言われています。木々の茂る急斜面に囲まれる人里離れた溪谷という絶景のロケーションは、車を走らせてでも行く価値があります。この温泉はナトリウム炭酸水素塩泉です。